

# 京大リウマチ通信

創号

京都大学医学部附属病院 リウマチセンター

2011. 05. 18 No.01



## リウマチセンター紹介

近年、生物学的製剤などの強力な治療薬が使われるようになったことにより、関節リウマチの治療は以前と全く異なるものとなりました。そのため、関節リウマチを早く診断して適切な治療を行うことにより、速やかに病気の勢いを低い状態にすることを旨とする治療が世界的に一般化されようとしています。そのような世界標準の治療を、内科と整形外科の垣根を越えて提供するために、「京大病院リウマチセンター」は設立されました。リウマチに特化した診療を行う医師として、免疫・膠原病内科と整形外科から4人の専門医が着任し、それぞれの科と緊密な連携を保ちながら、診療していきます。

目指すのは、例えば、糖尿病のような治療スタイルです。糖尿病では、医師、薬剤師さん、栄養士さん、そして患者さん御本人が、血糖コントロールおよび合併症の予防という共通の目標をもって、話し合いながら治療をすすめています。関節リウマチにも、そのような治療スタイルがあっていいのではないのでしょうか。リウマチセンターでは、リウマチにかかわる看護師さん、理学療法士さん、薬剤師さんらとチームを組み、また、患者さんご自身にも、もっとリウマチという病気について理解してもらうために、ニュースレターを発行したり、患者さん向けの勉強会を開くことを予定しています。

「関節が腫れる、痛む」などの症状が続くときは、関節リウマチの可能性があります。受診を希望される患者さんは、どうぞお気軽に御相談ください。

これから、京大病院リウマチセンターをどうぞよろしくお願ひします。



## センター長よりごあいさつ



京都大学医学部附属病院リウマチセンター長 三森 経世



三森 経世

このたび、リウマチセンターが京大病院に開設されました。当方は専門外来を中心とする活動ですが、膠原病内科と整形外科が緊密な連携の元に同じ場所で診療を行い一元管理することは、我々が目指す集学的治療とトータルケアの第一歩でもあります。また診療だけでなく、リウマチの原因解明や新たな診断治療の開発研究、患者さんやご家族向けの情報発信も当センターの大切な使命です。まだ産声を上げたばかりのリウマチセンターではありますが、我が国のリウマチ性疾患の診療と研究の拠点を目指しますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



平成23年4月6日(水)の京都新聞(朝刊)に、京都府内初のセンターとしてリウマチセンターの記事が載りました。

京都大学医学部附属病院はこれまで、院内に診療科の枠を超えて関節リウマチの治療を行う「リウマチセンター」を設置し、外来診療を5月2日から始める。京都府内では初のセンターとなる。自己免疫疾患の関節リウマチは、京大病院だけで約3千人の外来患者がいる。従来、

### リウマチ治療総合的に

病状により内科や整形外科が診療したが、投薬や手術、リハビリなどを総合的に行う機会が求められていた。センターには整形外科、内科から4人の医師を配置し、センター長には三森経世教授が就く。製薬会社と連携し、診断法の確立や新治療法の開発も行う。(松尾浩道)

### 京大病院内の他の科で関節リウマチの治療を受けている患者さんへ

リウマチセンターは、免疫・膠原病内科、整形外科と連携して、リウマチ治療を行っております。いままで他科でリウマチを診てもらっている患者さんは、「リウマチセンター」ができたからといって、必ずしもリウマチセンターに移っていただく必要はありません。もちろん、患者さんご自身が希望されたり、主治医の先生から指示された場合は、どうぞお気軽にリウマチセンターを受診してください。



# リウマチセンター開設記念講演会



藤井隆夫



伊藤 宣



平成23年3月26日に京都大学楽友会館にて、リウマチセンター開設記念講演会が行われました。病院長 中村孝志先生が開会の挨拶を行い、京都大学理事 塩田浩平先生、京都大学大学院医学研究科長 湊長博先生、京都大学医学部附属病院副看護部長 山中寛恵様から祝辞を頂きました。

リウマチセンター准教授 伊藤宣より「リウマチセンターの設立経緯と目的」について、当センターは関節リウマチの集学的治療、効率的な研究、包括した組織を作ることなどを目的に設立し、免疫・膠原病内科と整形外科のみならず、看護部やリハビリテーション部の協力を得て、リウマチ治療専任のセンターとし、各部署や研究部門、さらに学会や官公庁、他施設、地域連携や患者団体との連携を持ちながら、関節リウマチ治療の発展に貢献することを目標とすることが話されました。

リウマチセンター准教授 藤井隆夫より「京大病院リウマチセンターがめざすもの」について、当センターが一体となって近隣診療所と連携を密にして、関節リウマチを早期に診断し目標達成に向けた治療を行えば、関節の破壊が抑制できて患者さんの生活の質が維持できることや、関節リウマチの病因の1つである環境因子についてはまだ不明な点が多く明確にしていきたいことなどが話されました。



木村友厚先生



山中寿先生

開設記念特別講演では、富山大学大学院医学薬学研究部 整形外科・運動器病学教授 木村友厚先生に「リウマチ性疾患の関節破壊制御 一どこまで可能かー」について、関節リウマチの身体機能には関節軟骨破壊が大きく影響し、これまでの骨破壊の阻止を目指した治療に加え、関節軟骨破壊予防を目指した新たな治療法の開発が必要であることなどについてご講演頂きました。また、東京女子医科大学附属 膠原病リウマチ痛風センター所長 山中寿先生「関節リウマチ診療の進歩におけるリウマチセンターの役割」について、膠原病リウマチ痛風センターも当初は医師4人から始まり現在は67名という大きな組織になったことや、内科系医師と外科系医師が常に連携して診療を行えることが大きな利点であることなどについてご講演頂きました。

最後にリウマチセンター長 三森経世が閉会の辞を述べ、閉会しました。



## 受付時間

午前8時30分～午前11時00分

診察室	月	火	水	木	金
108号室	橋本		藤井	橋本	藤井
109号室		布留		伊藤	

リウマチに関するご質問や、特集してほしい記事などありましたら主治医もしくは外来秘書にお気軽にお申し出下さい。

## お問い合わせは…



京都大学医学部附属病院 リウマチセンター  
 代表電話 075 (751) 3111 予約電話 075(751) 4891  
 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54  
 ホームページ <http://www.racenter.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>  
 \*リウマチ通信は今後も定期的に発行いたします

